

映画『うまれる』のご紹介

◆ 映画『うまれる』につつまして

■ はじめに

映画『うまれる』は、出産、死産、不妊、障害、胎内記憶など様々な経験をされるご夫婦、ご家族の生の姿を見、そして経験を共有する事で、【自分たちが産まれてきた意味や家族の絆、命の大切さ、人との繋がり、そして“生きる”ことを考える、ドキュメンタリー映画】です。



妊娠・出産・育児、流産・死産、不妊、障害など『うまれる』ということを幅広く捉える事で、親子関係やパートナーシップ、男性の役割、そして『生きる』という事を考える・感じる内容になっております。

映画をご覧いただいた方々から「育児が煮詰まっていたけれど、子供が産まれてきてくれた事に心から感謝するようになった」「離婚寸前だった夫婦関係が改善した」、「両親と仲直りするきっかけになった」など数多くの報告が届いており、また、作家の【乙武洋匡】さん、元少子化対策担当大臣の【小淵優子】さ

映画『うまれる』のご紹介

ん、女優の【鶴田真由】さん等、多くの著名人の皆さまから絶賛のコメントをいただいております。

しかし、【ドキュメンタリー映画はなかなか多くの映画館で上映されにくい上に上映期間も短く、全国に私たちのメッセージが伝わりにくい現状】があります。

【私たちの夢は5年間で100万人に映画を観ていただく事】です。100万人の方に映画を観ていただければ、【社会がより良い方向に変わる】のではないかと、そんな夢をもっています。この夢の実現のために、映画館での上映が終わった後も、地域での上映会の開催を進めて行きたいと思っております。

【家族は大切だ、命はかけがえがない、という事は、誰でも頭では分かっている】と思います。しかし、日々の生活の中で、どうしても「当たり前のこと」のように思えてきてしまいますし、【親が子を愛する気持ちは親が思っているほど子供に伝わっていない】という事も現実にはあるようです。

それは、【大切な事を「心で感じる」機会が少ない】からではないかと私たちは考えています。涙と共に心の底から、そして細胞の一つ一つに伝わる機会があれば、現在の、そしてこれからの悲しい事件、虐待、育児ノイローゼ、産後ウツ、親子の断絶、そして自殺やひきこもりの増加などの解決への足がかりになるのではないかと確信しています。

子どもを育てにくい、生きにくい現代だからこそ、多くの方々にご覧いただきたいと願っております。

【映画『うまれる』がそのきっかけに】なること、そして、【そのきっかけを皆さまにお作りいただける事】を切に願っております。

映画『うまれる』 企画・監督・撮影
豪田トモ（映画公開と同時に一児の父に）

映画『うまれる』のご紹介

■ 概要

- ・ 製作年・・・2010年
- ・ 上映時間・・・1時間44分
- ・ 色・・・カラー
- ・ スクリーン・サイズ・・・ビスタサイズ
- ・ サウンド・・・DTSステレオ
- ・ 公式ホームページ <http://www.umareru.jp/>

■ スタッフ&キャスト

- ・ ナレーション&主題歌・・・つるの剛士
- ・ 企画・監督・撮影・・・豪田トモ
- ・ プロデューサー・・・牛山朋子
- ・ コメンテーター(出演者)・・・大葉ナナコ、池川明、鮫島浩二、岡井崇、見尾保幸、吉村正(日本を代表する産科医・お産のエキスパートの方々です)



■ 内容・ストーリー

両親の不仲や虐待の経験から親になることに戸惑う夫婦、
出産予定日に我が子を失った夫婦、
子どもを望んだものの授からない人生を受け入れた夫婦、
完治しない障害(18トリソミー)を持つ子を育てる夫婦、

と4組の夫婦が登場し、妊娠・出産だけでなく、流産・死産、不妊、障害、「子供が親を選ぶ」という胎内記憶など『うまれる』ということ、幅広く捉える

映画『うまれる』のご紹介

事で、出産だけではなく、親子関係やパートナーシップ、男性の役割、そして生きるという事を考える・感じる内容になっております。

また、これまでの妊娠・出産を扱った映像と異なり、監督やナレーター(元祖イクメン・タレントつるの剛士)などメイン・スタッフに男性が関わっている事からも、常に「妊娠・出産・育児における男性の様子」にも焦点が当てられており、「イクメンになりたいけど、どうしたらいいか分からない!」という男性にも共感できる映画になっています。



■ 映画のテーマ、メッセージ

- ◎ 『うまれる』ことは当たり前ではない = 自分の存在の奇跡、【命】の尊さ
- ◎ 【家族】の絆
- ◎ 人、そして社会との繋がり
- ◎ 生きるとは？

■ 映画館での公開

2010年11月6日よりシネスイッチ銀座ほか全国約70箇所上映が開始され、とても多くのメディアに取り上げられ、また、圧倒的な作品に対する高評価から、この規模にとっては【異例のヒット】となりました。

2011年春からは自主上映会を開始し、これまでに10万人以上の方々に映画をご覧いただいております。

映画『うまれる』のご紹介

■ 製作のきっかけ

カナダ・バンクーバーで映画製作を学んだ映像クリエイターの豪田トモ監督は、「子供が親を選ぶ」という考え方を聞いた事をきっかけに、長年わだかまりのあった、【自身の親子関係を見つめ直すために映画製作をスタート】しました。

出産をテーマにした映像は、女性が自身の体験を基に製作される事が多いのですが、豪田トモ監督は、男性であり、また、「親子関係」からスタートしたため、「出産映画」の枠を超え、「生きる」ことを考える・感じる映画になっています。

監督は製作しながら両親への感謝が湧き出、親子関係が劇的に良くなったと語っています。そして映画公開直後に娘を誕生し、いまではイクメン(育児を楽しむ男性。育児を積極的に行う男性)に。

「結婚したくない」「家族なんていない」「父親になりたくない」と語っていた豪田トモ監督は、映画製作を通して『うまれる』という原点に立ち戻ってみた事で大きな成長を遂げました。

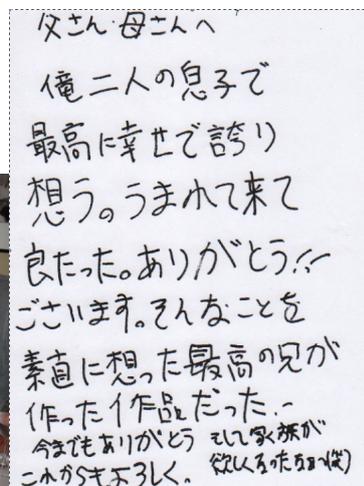
自身も「自分のようなポジティブな変化が観ていただいた方にも起こったら嬉しい」と語っています。



※1977年(監督の家族)



※2010年



※監督の弟より

映画『うまれる』のご紹介

■ 映画の反響

【作品に対する高い評価】

各方面で非常に高いご評価をいただいております、Yahoo!映画のレビュー・ランキングでは、公開当初は何度か【歴代一位】を獲得し、【2010年公開映画ではベスト3】に入らせていただいております(2010年12月31日現在、平均採点5点満点中4.57点、投票数80)。

The screenshot shows the Yahoo! Movies website interface. At the top, there is a search bar and navigation tabs for '映画・俳優・映画館を検索', '映画検索', 'ニュース', 'インタビュー', '試写会', 'DVD情報', 'レンタルDVD', and 'オンラインシアター'. Below the search bar, there are several news items and a 'ランキング' (Ranking) section. The ranking section is titled 'DVD販売' and lists the top 5 movies. The first movie, '1 うまれる', is circled in red. Other movies listed include '2 七人の侍', '3 スティング', '4 トイ・ストーリー3', and '4 ローマの休日'. The ranking is updated as of 11月8日更新.

※Yahoo!ムービーより

実際に観ていただいた方より、「離婚寸前だった【夫婦関係が改善】した」、「子供をいらないと言っていた【妻が「子供が欲しい」】と言ってくれるようになった」、「【両親と仲直りするきっかけに】なった」、「二人目はいらないと言っていた夫が「頑張ってみようか」と言ってくれるようになった」、「【夫が優しく】なった」、「子供が反抗しなくなった」などの報告が毎日のように多数、届いております。

出産や妊娠は女性向けのものというが、男性にとっては
あまり関係のないもの、興味をもってもらえないもの、というよりは
イメージもあっていいか。「うまれる」を見て、出演している
パパ達、監督の表情は、なにすばらしいんじやろかと思った。
我が家もこれからパパと子供の関係をまたたく
みもっていいんじやろか。

映画『うまれる』のご紹介



egao_aishiteru 高橋ゆき

12歳になった娘から「ママ、素敵なプレゼントをありがとう」と喜んでもらった。嬉(AA) RT @umareru: 映画『うまれる』大好評



mi_chin717 みーちゃん (ちい・angel)

本当に最高。でもそれ以上に映画が最高。「うまれる」は、生涯で出逢えて良かった映画NO.1です♡命って本当に強くて凜として美しくてかわいくて、、愛しい。RT @umareru: 品川プリンスシネマさんのプレミアムシートは最高ですo(^▽^)oぜひ一度ご体験を！



sonasan そな

映画「うまれる」を観てきました。涙が止まらず、声を殺して泣きました。元気なふたりの娘を授かっただけでも有り難いこと。それもこんな夫婦のところを選んでやって来てくれたならば。結婚生活破綻を回避するヒントがありました。RT @umareru: 究極の育児は、夫婦が仲良くしていること



eckey166 益貴大

@umareru 拝見しました。DNAの芯の部分をやさしく撫でられ



Nottiy515 のっち

映画『うまれる』@umareru を見てきた。泣いた。感動したーとかそう言う単純な涙ではない。それはワタシが超えてない色々があるからだろうなあ。面白い映画だった。これ見て、男性はどう受け止めるんやろう。それが気になる 朝日新聞朝刊の記事 <http://bit.ly/emy8JB>



bossada Bossa★Da

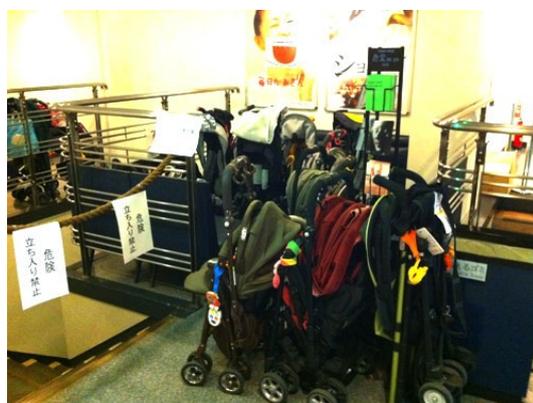
@umareru 「うまれる」を妻と見ました。僕らは椿ちゃんご夫婦と同じ経験をしまして、自分達とダブらせて終始涙しました。僕らを選んで来てくれて来てくれてありがとうございますと思いました。沢山の方にこの映画を見てもらいたいです。うまれて来た奇跡に日々感謝しながら生きて行こうと思いました。

※ 公式ホームページ内や各ブログに、既にご覧になった方の感想がたくさん掲載されております。 <http://www.umareru.jp/imp/>

映画『うまれる』のご紹介

【ママに大人気】

赤ちゃん同伴 OK の「ママさんタイム」には、全国でたくさんのママが詰めかけて話題になりました。特に毎週定期的に開催した東京・シネスイッチ銀座では、開催するたびにクチコミでママが増え、計5回の「ママさんタイム」の【平均座席占有率は95%】になりました。



【市民サポーターのパワー】

劇場公開の2年前よりインターネットを通じてメッセージを発信し続けた事で多くのサポーターを獲得し、映画の告知や集客に大きな役割を果たしていただきました。

- ・ ミニ・ドキュメンタリーを含んだ宣伝用DVDをネット経由で約1,000枚を無料配布。5万人以上が視聴。
- ・ 公式HPでチラシ配布の協力を呼びかけ、5万枚以上郵送。
- ・ 札幌の映画館に一年がかりで口説き上映が決定。
- ・ 愛知・春日井や広島・福山等の映画館で赤ちゃんと一緒に観れる上映会開催。
- ・ 岡山で託児付上映を企画・開催。



映画『うまれる』のご紹介

【メディアが注目】

NHK(おはよう!日本、特報首都圏)や日本テレビ(NEWS ZERO)等のテレビ番組の他、読売、朝日、毎日、産経や各地方新聞に特集いただきました。また、AERAや週刊朝日、たまごクラブなどの雑誌、ラジオ J-WAVE TOKYO MORNING RADIO などでも取り上げていただきました。

◎NHK で二度に渡って特集



(NHK「特報首都圏」2010年4月16日、「おはよう日本」2009年11月28日)

◎主要全国紙すべてで特集



朝日新聞「はぐ」(2010.7.23)



読売新聞「顔」(2010.10.09)

映画『うまれる』のご紹介

◎地方紙にも10紙以上で特集掲載



※全国誌でも特集



映画『うまれる』のご紹介

■ 有名人の感想コメント(一部抜粋)

この映画は、たんなる出産ドキュメンタリー
などではなく、出産を切り口にした
『親子の物語』なのだと思います。
親に、深く、深く、感謝した。



乙武洋匡（作家）

=====
生きてていろいろ腹立つことあるけど、
結局、うまれたから愛する人と出会えたんだ。
ありがとう。悲しくない涙がたくさん出ました。



鈴木おさむ（放送作家・TBSドラマ「生まれる。」脚本家）

=====
「誕生」を通してそれぞれの人間ドラマが
かいま見えました。そのどれもが儚なく危うい存在で、
全ての命そのものが奇跡のように感じられた作品でした。



鶴田真由（女優）

=====
私は子供を産まずに45歳になりました。
でも、それは欠陥ではないよ、と言ってもらえた気がしました。
そう思ったら涙が止まりませんでした。



さかもと未明（漫画家・タレント）

=====
私に関わってくれるすべての人に
「本当に本当にありがとう」と言いたくなりました。
また政治家という立場からも
何ができるか考えさせられる映画でした。



小淵優子（衆議院議員 元少子化対策・男女共同参画担当大臣）

映画『うまれる』のご紹介

■ 映画鑑賞の効果

様々な感想、レビューから映画をご覧いただいた方には以下のように様々な事を考え・感じていただけているようです。

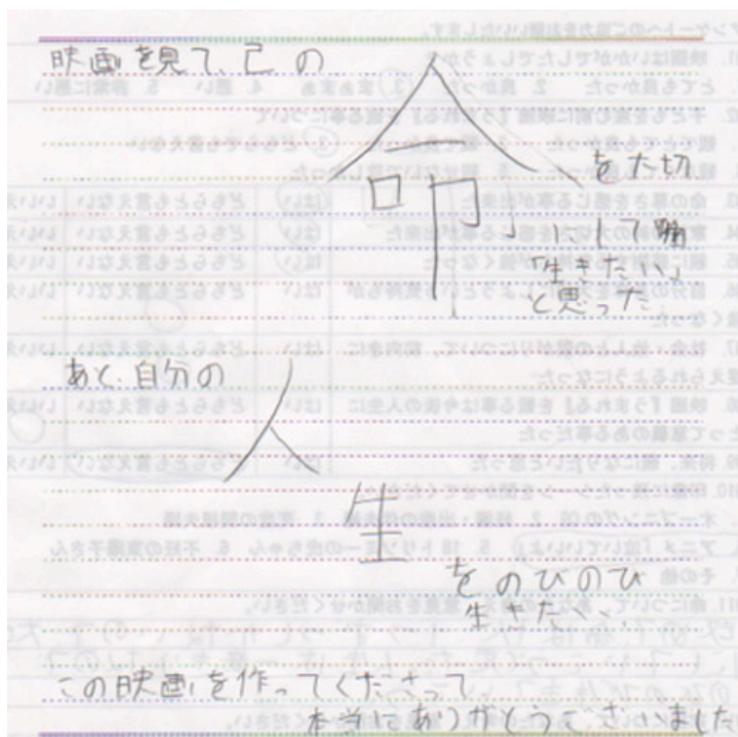
- ◎ 自分がいかに奇跡的な存在であるかという事、そして産まれて来たすべての命がどれほど尊いかという事
- ◎ 産まれてくる事、生きている事、育てられた事は「当たり前」ではない
- ◎ 産んでくれた、育ててくれた両親への感謝。両親だけでなく、支えてくれている周りの人々や社会への感謝
- ◎ 妊娠・出産は感動だけではなく、辛い出来事(流産・死産、不妊)もあり、それだけに妊娠する事は奇跡であり、妊娠した時から命が宿っているという事
- ◎ 障害があつたとしても懸命に生きている命・育てている家族があるという事
- ◎ 自分が親を選んだと思ふ事で親や他人の責任にしない自主独立心の芽生え
- ◎ 虐待があつたり、両親との関係が微妙だつたとしても、意志によって親子の問題を解決できる事
- ◎ 妊娠・出産・育児は女性だけでなく、男性と共に取り組んで行く必要があるという事、男性にも様々な役割があるという事
- ◎ 出産だけが「うむ」行為ではなく、出産をせず別の形で社会に貢献するという道がある事
- ◎ みんな違ってみんな良いという事

映画『うまれる』のご紹介

■ 学校での上映

『未来人育てプロジェクト』と題し、2011 年秋より学校での上映を開始し、皆さまからの支援金をもとにした、小学校から高校までの学校上映の無料化に取り組んでおります(大学や専門学校などの場合は税込価格 52,500 円になります)。

2011 年 12 月現在まで、約 50 校、約 20,000 人の学生・生徒・児童の皆さまに映画をご覧いただいております。



子ども達の感想

=====
今までは生命をあまり深く考えた事はなかったけれど、この映画を観てとても"尊い"ものだと思います。「死にたい」「消えたい」という言葉を多用していた自分を恥ずかしいと感じました。

お母さん、お父さんにはいつもいつも大変な思いばかりさせてしまっていることが多いと感じました。これからは、行動でありがとうという気持ちを伝えてみたり、実際に言葉で感謝の気持ちを伝えていきたいです。

映画『うまれる』のご紹介

■ 『うまれる』公式HPにつきましたて

公式ホームページは2009年3月の開設以来、毎日更新しているブログなどでの情報発信が好評を呼び、「巻き込み型映画」として多くの方から応援いただいております。

- ・ 映画『うまれる』公式ホームページ→【月間アクセス数 約30万PV】
→日本の映画サイトで最大級
- ・ YouTube再生回数→【約300万】以上
- ・ メールマガジン読者→約8,000人
- ・ Twitterフォロワー→約6,000人(邦画で第4位!)
- ・ サポーター→約2,000人
- ・ ボランティア・スタッフ→約200人
- ・ mixiコミュニティ→約1,500人

(2011年12月現在)



お母さん、
あなたに逢えて
よかった

魂が号泣する感動の104分

うまれる

ナレーション つるの剛士
企画・監督・撮影 栗田トモ
原簿『オノマトテ UMARERU JAPAN』つるの剛士 (PONY CANYON INC.)

全国拡大ロードショー中!!

上映会	お知らせ	ストーリー	プロダクションノート	キャスト	スタッフ	予告編	劇場情報
-----	------	-------	------------	------	------	-----	------

● ブログ ● メールマガ ● イベント ● 商品 ● 体験談 ● サポーター ● 映画の感想 ● よくある質問 ● 掲載メディア ● リンク

What's New ブログで様々な情報を発信しています。

- ・2011.01.24 【2月22日(火) 13時~14時半 自主上映会説明会開催!!】
- ・2011.01.23 「ママさんタイム」のレポート
- ・2011.01.22 虎ちゃんと共に...
- ・2011.01.21 親ばか自誌: ハバ離れ...
- ・2011.01.20 河北春秋
- ・2011.01.19 親ばか自誌: そっくり親子
- ・2011.01.18 2010年のベスト映画

エブリィ・シネマ
あなたの町で
「うまれる」を上映しよう
自主上映会の詳細はこちら

★アンゲート実施中★
サンロードなど映画で
5巻目にプレゼント!
映画の感想などお聞かせください!

twitter 「命の誕生」を実況生中継しています
映画「うまれる」
umareru
RT @lunatic_yoko: 素敵なコメントですね。丹久保さん、
アタラシサーとしても笑顔が可愛くて素敵だなと思って
います。 RT @umareru: 【5巻純字(フリーアナウ
ンサー)】「映画を見終わる、胸にいた胎動を抱きし
めた。素敵な映画が生まれてくれて、ありが...

企業サポーター一覧へ
Combi コンビ株式会社
Aprica アプリカ・チルドレンズプロダクツ株式会社

◆ 自主上映会につままして

2011年春からは「地域を超える！人がつながる！」をテーマに、地域市民に手による自主上映会を開始し、300箇所以上で上映会を開催いただいております(2011年12月現在)。

■ 自主上映会とは？

『うまれる』パートナーズLLPからフィルムもしくはDVD、ブルーレイを借り、上映会場をおさえ、集客をし、映画『うまれる』の上映を行うことを言います。

映画『うまれる』のテーマにご賛同いただき、地域の方々とこの作品を共有したいと思ってくださった方が主催者となり、自主的に映画の上映会を主催していただくものです。

市区町村等の行政・地域振興サービス、学校の授業、企業の社会貢献や文化事業、男女共同参画、ママ・サークル、子育て、母の日、父の日、子どもの日、いいお産の日などの各種イベント、男女共同参画、自殺予防、イクメン育成、無縁社会防止、虐待防止、産後うつ防止、人権教育などの企画など、様々な企画にご利用いただき、地域で命、家族、絆、生きることを考える・感じる機会にしていただければと願っております。

■ 主催者様の役割

開催に必要な主な活動は4つです。

1. 仲間を募る

お一人で開催するのはご負担が大きいため、5～10人ほどの仲間を集めてチームを組んでください。準備や告知、当日の運営等でこのくらいの人数が必要になります。

映画『うまれる』のご紹介

2. 場所を借りる

各自治体は概ね、映画の上映が出来るホールなどを所有しており、一日借りて1～2万円くらいというところがほとんどです。お住まいの自治体に「200名規模で映画の上映をしたいのですが?」とお尋ねいただければ、利用可能な場所をお答えいただけると思います。

会場の規模は200名ほどが平均になります。

また、お近くの大学など解放されている学校の施設をご利用される主催者様もいらっしゃるようですので、ご参考くださいませ。

日程は、動員しやすいという事で、土日祝日に開催される主催者様が主流ですが、20代半ば～50代の女性を対象とし、「ママさんタイム」鑑賞をされる場合、平日でも問題なく集客していただけます。

実際に2011年3月10日(金)に神奈川県逗子市で開催された上映会は、午前の部が「ママさんタイム」、午後の部が一般上映でしたが、両方とも満席になりました。

3. 告知・集客をする

チラシやポスターを配布する、試写会を開催する、地元のメディアに取り上げていただく等、チームの皆さまで、地域を巻き込んで、告知・集客をしてください。

4. 上映をする

『うまれる』パートナーズLLPより、DVD、ブルーレイ、35mmフィルムの内いずれかを貸出いたしますので、プレーヤー、プロジェクター、スクリーンをご用意いただき、上映してくださいませ(概ね、どこの会場にもあります)。

映画『うまれる』のご紹介

■ 上映会の準備期間

上映会の準備期間は、最長で6ヶ月、平均的には2~3ヶ月ですが、開催日の1ヶ月くらい前から始め、勢いに乗って準備と告知をされる主催者様も多くいらっしゃいます。

あまり長く準備期間を設けるよりも、1~2ヶ月で集中して取り組む方がお客様が集まりやすいとも言われておりますのでご参考くださいませ。

また、既に開催メンバーが決まっている場合は2~3ヶ月で十分ですし、1ヶ月前でも間に合うと思われれます。

■ 『うまれる』パートナーズLLPの3つのサービス

1. 映画「うまれる」上映権の付与と上映メディアのレンタルをいたします。
2. ウェブページ、各種マニュアル、メールでのお問い合わせ対応で上映会開催のサポートをいたします。
3. 映画『うまれる』公式ホームページ、メルマガ、Twitter、mixiなどで上映会の告知・宣伝・集客のご協力をいたします。

映画の上映をした事がない方でも安全・安心に開催できるように、『うまれる』パートナーズLLPがメールやマニュアル等を通して、出来る限り、運営をサポートいたします。

■ 上映会の際の主なご注意点

* 会場の予約・運営、集客、上映機器の準備・テストなどは主催者側主導で行っていただきます。

* DVD上映の場合、ご家庭でもお使いのDVDデッキおよびビデオプロジェクタ

映画『うまれる』のご紹介

一、スクリーンのある会場での上映が前提となります。

* 35 ミリフィルムでの上映の場合、会場の映写機にて映写技師のもとにフィルム上映をしていただく事になります。

* 機材のレンタルや映写技師の派遣などのご紹介もさせていただいております。

■ 料金

★無料上映の場合★

鑑賞者 200 名まで→10 万円 ※最低保証料金として

鑑賞者 201 名以上→【500 円×鑑賞者数】

★有料上映の場合★

鑑賞者 140 名まで→7 万円 ※最低保証料金として

鑑賞者 141 名以上→【500 円×鑑賞者数】

< 料金に関するご注意事項 >

- ・ 上記のお値段は「一日のレンタル代」となります。一日に複数回開催していただいても大丈夫です。
- ・ 3 歳以下の小さなお子さんと一緒に観れる「ママさんタイム」を実施していただいた場合、10%引きになります。
- ・ 助成金や協賛によるお支払いも可能です。

一回の上映会における平均入場者数は 297 名で、座席占有率(鑑賞者数÷座席数)の平均は 76%です(有料と無料はほぼ同率です)。

映画『うまれる』のご紹介

■ 詳細およびお申込

映画『うまれる』上映会サービスに関しまして、詳細を御確認の上、インターネット経由でお申し込み下さい。

★詳細

<http://www.umareru.jp/everycinema-2.html>

★お申込

<http://www.umareru.jp/post-1.html>

- ・ TO DO リストや役割分担表、マーケティング・データ、集客の方法、当日の進行表など各種マニュアルをご用意しておりますので、お申込後にお渡しさせていただきます。
- ・ 誠に恐れ入りますが、ファックス等でのお申込は受け付けておりません。



以上になります。

ぜひ命の、家族のメッセージを共に広めてください!

よろしく願いいたします。

映画『うまれる』

企画・監督・撮影 豪田トモ

プロデューサー 牛山朋子

※ 情報は常にアップデートされており、もしウェブに公開している情報と相違点ある場合はウェブでの情報公開を優先させていただきます。